ンチで強い集積像を示したのは，濾胞性腺癌2例，濾胞性腺腫6例で，集積の程度が少いものは濾，胞性腺腫1例，乳頭状腺癌4例全部であった．のう腫の2例は，すべて ^{201}Tl シンチでも欠損像を示した．橋本氏病では，^{201}Tl でも甲状腺全体が描画され，内1例は，その中に強い集積像が認められた．組織診の確定しない甲状腺癌の1例では，濾胞性腺癌と同様の強い集積像が認められた．以上の結果から，^{99m}Tc および ^{201}Tl シンチグラフィーを行なうことにより，極めて短期間に術前検査として有用な情報をうることができると考えられる．

29. ^{99m}Tc-diphenyl-thiocarbazone

小林　眞　乗岡　栄一
（福井県病・放）
小沢ふじ子　小野　栄一
（同・放）
久田　欣一
（金大・核）

Zn は膵臓，前立腺に多く分布している事が知られている．Diphenyl-thiocarbazone は Zn とキレート結合し，Zu, Cu, Co 等の定量に用いられている発色剤であるが，実験糖尿病誘発剤としてアロキサンとともに有名である．我々は以上の事実より Diphenyl-thiocarbazone に ^{99m}Tc を標識して膵臓の陽性描画を目的としてマウスにおける体内分布を検討した．

標識方法は $NaBH_4$ 還元法によりした．標識の有無は TLC，セルロース・アセテート膜電気泳動により検討した．体内分布はマウス尾静脈により注入後1時間，3時間後に頸静脈より脱血し，% administer dose /g tissue nieight として求めた．更に膵と他の臓器の比率を求めた．膵/血液比は1時間後で2.4，3時間後で1.3であった．しかし膵/肝比が0.67, 0.37と悪く膵臓陽性描画用剤としてはなお検討の必要があろうと思われた．

30. 米国核医学会に出席して

利波　紀久
（金大・核）

第24回米国核医学会総会は約6,000名の参会者を迎えてシカゴ市のマッコーミックプレースにて6月20日より4日間 Mackntyre 教授のもとで開催された．今回の新しい試みとしては scientific program に併行して poster session が取り入れられたが，これはposter-style の presentation によって自由に討議するものであり，放射性医薬品，心血管，装置が議題として取りあげられ好評であった．

今回の話題としては，Cardiology の分野での computer 応用が完全に臨床に結びつき portable camera の新型機と portable data processor の展示は目を見張るものがあった．核医学なくして Cardiology はないといっても過言ではない．

もう一つのトピックは Emmission CT の進歩である．Positoron を用いる方向とシンチカメラを用いた Single photon の2つの方向があるが，それぞれまだ完全なものとはいえないまでもすでに4社から発売されていた．CT に対する評価が冷静な目で議論されている米国では現在最大の関心事となった感がある．主要核医学機器となるのもそう遠くないであろう．わが国より口演発表されたのは飯尾(東京都養育院)，長滝(東大)，森田(京大)，佐々木（聖マリアンナ大），町田（東大），河村（関西医大），河野（九州がんセンター），利波（金大）の諸氏による8題と活発であったが反面わが国よりの参会者は3年前に比べると少なく寂しい感じがした．

Presented by Medical*Online